



(奈良)

として、園池南岸部分に東・中央・西の三つの調査区を設けて汀線の確認などを目的として行なったものである。木簡は中央調査区の、近代の造成土・攪乱土より出土した。なお西調査区からは近代の絵馬風の板一点も出土している。

奈良・大乘院庭園 だいじょういんていえん

- 1 所在地 奈良市高畑町
- 2 調査期間 第二六〇次調査 一九九五年(平7)七月~九月
- 3 発掘機関 奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部
- 4 調査担当者 代表 町田 章
- 5 遺跡の種類 庭園
- 6 遺跡の年代 古代~近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

大乘院は興福寺の門跡寺院として隆盛を極めたが、廃仏毀釈以後廃絶した。今回の発掘は大乘院庭園の整備のため、第二六〇次調査

8 木簡の釈文・内容

(1) 「大和奈良 東京牛込 片原町 津久戸□町

。田中秀善様 二条家。

十二月二十七日□□□□賀 173×82×6 011

〔配達料先カ〕
□□□□私〕(朱印)

左右及び下端は削って調整、上端は折った上で荒く調整。東京牛込津久戸□町(現、東京都新宿区)の二条家から奈良片原町(現、奈良市高畑町)の田中秀善へ宛てた荷物の荷札である。上下両端に穿孔。印記は長方形で三・三cm×〇・九cm。

片原町は、庭園の南側を東西方向に走る道路の北側の街衢である。荷物到着後、裏手の園池に廃棄したのであろう。同町は明治一六年(一八八三)に高畑村に合併されたので、高畑村の表記が見えない木簡の廃棄時期はそれ以前の明治時代前半とも考えられるが、合併後も通称地名として残っているので、明確な時期は特定し得ない。

9 関係文献

奈良国立文化財研究所『一九九五年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』(一九九六年)

(山下信一郎)